

第23回科学研究口頭発表会の様子

令和7年12月7日（日）に、金沢市長土堀青少年交流センターの4階大集会室で「第23回科学研究口頭発表会」が行われました。この会は、児童・生徒が夏休みを中心に取り組んだ科学研究の内容を口頭で発表するものです。今年度は、ジュニア科学者養成講座受講者と、金沢市小・中学校児童生徒科学研究作品展の成績優秀者を中心に、小学校3年生から中学校3年生まで16名の参加がありました。

発表者は与えられた8分間の時間を使って、自分の研究作品の内容を分かりやすく伝えるために多くの工夫をしていました。プレゼンテーションソフトを駆使したり、模造紙に大きくまとめた結果の表を掲示したり、実物の作品等を提示・演示したり、クイズ形式で参観者に問いかけたりしている発表者もありました。

「プレゼンテーション」という言葉は「プレゼント」に由来しており、相手に情報や提案を「贈る」という意味合いがあります。会場の聴衆は発表者から、研究で得られた発見や成果や感動などを受け取っていました。質疑応答の時間には、聴衆からも多くの質問や感想が寄せられ、発表者にとっても聴衆にとっても、より理解が深まったように思います。

審査委員として、金沢大学から2名の先生と2名の大学院生をお迎えしました。各審査委員からは、研究内容や実験方法、考察の方法、まとめ方、発表方法など、さまざまな視点から質問やアドバイスをいただきました。発表者からは、「とても参考になった。」「次の研究や発表でどうしたら良いかを教えていただいた。」といった感想が多く聞かれました。

すべての発表後に審査が行われ、発表内容に応じて「発想行動賞」「創意工夫調査賞」「生活実験工夫賞」「栽培観察発表賞」「フィールド調査賞」「精密観察賞」「実験デザイン発表賞」「アイデア発表賞」などの賞が、クリスタルメダルとともに発表者全員に贈られました。最高賞の「北嶋科学賞」受賞者にはクリスタル楯と副賞（受賞者が希望する3万円相当の研究用の器材）が後日贈られました。

